

それを言っちゃあ おしまいだよ！

私事ながら、教職に就く以前、民間の金融機関（某信託銀行）に5年間勤務していました。就職して間もなく、大学時代の仲間が集まると、特に公務員やメーカー等に就職した友人からは「いいよなあ、銀行員は給料が高くて」とよく言われたものです。自分は別に給料でその会社を選んだわけでもないし、どんな会社や業種・職種がどのくらいの初任給や生涯賃金なのか、自分が今どれくらいの月給かも全く無頓着でしたが、心の中では「じゃあお前ら、給料高い順番調べて、一番高い会社や職種選んで就職すればよかったんじゃないの。」とっていました。実際給料は確かに高かったですが、業務への要求度は高くノルマノルマの競争社会で、月給はそれに見合う相当分だったとは受け止めてはいました。

その後、銀行を辞して中学校の教職に就きました。給料は前職に比べ激減しました。銀行時代の仲間と集まると、今度は「いいよなあ、学校の先生は休みが多くて。」と言われました。

自分は休みが多いから学校の先生になったわけではありません。実際、休日や夏休みなどは、部活動の練習や大会、各種研修、問題行動への対応に追われ、教職に就いてからまとまった休みなどとれたためしはありませんでした。自分の子どもより人様の子どもといる時間が長くて、家族旅行すらまともにできませんでした。

心の中で、「じゃあお前ら、休暇がとれる日数の順番調べて、一番休みがとれるところに就職すればよかったんじゃないの。」とっていました。

今振り返ると、どちらもブラック中のブラックだった（である）でしょうが、私にとっては、どちらもやりがいはあったし（あるし）、どちらもストレスも苦悩も半端なくありました（あります）。パラダイスの職場、バラダイスの生き方などはないのでしょうか。あったら教えてください。今から転職します。

教職について間もない頃の失敗談。クラスで一番地声の大きくておしゃべりな女の子に向かって、「おまえの声って本当に大きいよなあ。耳をつんざくくらいだよ。」と言ったら、その子が急に表情を暗くして、「ごめんなさい先生。私生まれながらに左耳が聞こえないんです。普通にしゃべっているつもりでも、よくやかましいと周りからよく言われて。これから気をつけます。」彼女に何度も何度も謝ったほろ苦い思い出。

例えば、若い女性が年齢不相応の基金金属を身に付けていたとします。「あら、お若いのに大そうなものをお持ちですね。」という皮肉たっぷりの言葉。でも、もしかしたら、それは彼女にとって最愛の祖母の唯一の形見だったかもしれないですね。。。。。

人の内面なんて他人には決して窺い知れないものです。その人の置かれている立場や状況、抱えている事情や苦悩なんてその人しかわからないことがたくさんあると思うのです。

にもかかわらず、私たち人間は、誰しものが、時には人を傷つけたり、他人の内面に踏み込んでしまったり、物事の一面だけを見て全体を判断してしまったり、自分の思い込みや判断だけでつい余計なことを口にしてしまったり、自分のことは棚に上げて他人を非難したり、そんなことを往々に繰り返します。

また、となりの芝生はどうしても自分の芝生よりきれいにうつります。自分が持っているものを羨んだり他人の成功や幸福を素直に喜べないような醜い一面も持ち合わせています。私もそうです。

とにかく、自分が一番大事、自分の家族や仲のいい人間や友だちがとても大切。自分より他人のことを優先して考えられる人間なんていないと思います。当然のことです。

私たちにとって、子どもも保護者も、同僚も、隣人も、ウクライナの人々も、誰しものが、自分以上の存在ではありません。そして、自分も含めて、すべての人間が100%何もかも備わった存在でもないのです。ただ一つ言えるのは、たとえその人のすべてがわからなくても、たとえ自分とは相性が合わなくても、気に入らないことがあったとしても、異国の地の人であろうと、誰にも人とは比べられることのできない優れた点やいいところもたくさんあるし、その人間にしかわからない苦悩や困っていることは持ち合わせているだろうし、その人を理解する努力はするべきだと考えます。

そして、もう一つ。私たちは、独りぼっちで生きていけるわけではなく、生きていけるはずもなく、多かれ少なかれ、集団や組織で動いていかなければなりません。だからと言って、個人個人の置かれている状況や、個々の価値観や資質が一人一人違う中ではあっても集団や組織のために個人を犠牲にすることなどあってはなりません。でも、犠牲ではなく工夫はできます。

また、個人の考えや思いを無視して集団や組織の健全な発展などありません。そして、物事を筋道立てて、自分の思いや考えや希望や要望をしっかりと説明したり主張したり吐露したりすることも、決して非難されるべきことではありません。

しかし、その前提になるのは、言うまでもなく、「確かなる客観的な情報」の収集と把握、自己の言動に対する「責任」、そして周囲への「思いやり」だと思います。

学校だけでなく、ネットや社会一般の中でも、『それを言っちゃあ、おしまいだよ。』という現場を目の当たりにすることが度々あります。決して良い気持ちにはなりません。と同時に、それで物事が本当に好転するのかと深い懸念を覚えます。

国家と国家との関係、地域と地域の関係もしかり、ご近所同士、保護者同士、教職員同士の関係もしかり、教師と生徒、教師と保護者との関係もしかり、親と子の関係もしかりなのです。